

(37) アスパラガス

(ア) 病害

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
茎 枯 病 全生育期間	<p>耕種的防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. り病枯死茎葉、実生・ひこ生えを除去するなどほ場衛生に努め、伝染源密度を低下させる。 2. 雨よけ栽培は感染回避に有効である。 3. 秋、地上部枯ちよう後の茎葉は地際から低刈りして処分する。 <p>薬剤防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茎葉散布（養成畑は全生育期間）
斑 点 病 全生育期間	<p>発生状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. り葉展開以降に発生する（7月中～下旬以降）。 2. 養成畑では発生が早い。 <p>耕種的防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. り病枯死茎葉、実生・ひこ生えを除去するなどほ場衛生に努め、伝染源密度を低下させる。 2. 秋、地上部枯ちよう後の茎葉は地際から低刈りして処分する。 3. 立茎栽培では、トリミング（茎葉の刈り込み）処理により発病を低減できる。 4. ハウス被覆資材に近紫外線除去フィルムを用いると、被覆2年目まで抑制効果が期待できる。 <p>薬剤防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茎葉散布 <ol style="list-style-type: none"> (1) 露地栽培での防除開始は、発病度で12.5（主茎に病斑が散見）とする。 (2) 10月下旬まで茎葉を枯死させないことを目標とする。
紫 紋 羽 病	<p>耕種的防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 無病苗を、無病地に定植する。 2. 草勢の低下を防ぐため、不用意に収穫期間を延長しない。 3. り病株は掘取って処分する。

(イ) 害虫

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
ジュウシホシ クビナガハム シ	<p>薬剤防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茎葉散布 <ol style="list-style-type: none"> (1) 成虫による被害は主に春芽の食害である。立茎栽培では成虫の寄

病害虫名及び防除時期	防除方法及び注意事項
	<p>生頭数が 10 株当たり 3 頭以上になると食害率が 10% を越える。</p> <p>(2) 立茎栽培では、立茎開始後の幼虫発生期が重点防除時期である。幼虫防除は、幼虫の食害による減収防止と次世代成虫による若茎被害抑制の効果がある。</p> <p>(3) 露地栽培では、収穫打ち切り以降に幼虫防除を行い、次世代成虫の密度を抑制して次年度の成虫による若茎被害を抑制する。</p>
ネギアザミウマ	<p>耕種的防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ハウス被覆資材に近紫外線除去フィルムを用いると侵入抑制効果が高い。被覆 3 年目でも効果は認められる。 2. 光反射資材 (タイベック) も侵入抑制効果がある。ただし、表面が汚れると効果が低下するので注意が必要である。 <p>薬剤防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤抵抗性情報 (詳細は 261~277 ページ参照) ピレスロイド系抵抗性個体群: 全道で広く確認されている。 2. 茎葉散布 立茎栽培では、7 日間隔 2 回散布やトリミング後の散布で効果が高まる。
ヨトウガ	<p>薬剤防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茎葉散布
ツマグロアオカスミカメ	<p>本虫の防除対策は、8 月中旬以降にアスパラガスの茎葉に産卵される越冬卵の密度を低減することが最も重要である。</p> <p>耕種的防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 越冬卵が産卵された茎葉は、秋季に茎葉黄変後ほ場外に持ち出し、適正に処分する。 2. 春季は、萌芽前に土壌表面全体をガスバーナーで残さや刈り株などが焦げる程度に処理する。 <p>薬剤防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茎葉散布 <ol style="list-style-type: none"> (1) 越冬卵の産卵を低減するため、8 月以降に薬剤を散布する。 (2) 若茎被害の多い場合は、収穫体系に合わせて若茎に対する薬剤散布を行う。

(ウ) クリーン農業技術 (病害虫防除関係分) (アスパラガス)

○発生モニタリングによる効率的防除

・発病度 12.5 を目安とした斑点病の防除開始時期決定

○耕種的防除

- ・斑点病対策として、品種間差を考慮した斑点病抵抗性品種の選定
- ・汚染源となる前年茎葉のほ場外持ち出し処分
- ・過繁茂防止のための刈り込み（トッピング）

○物理的防除

- ・ハウス栽培及び雨よけ栽培における近紫外線カットフィルムの利用による斑点病及びネギアザミウマ被害の軽減
- ・ハウス栽培における光反射資材の利用によるネギアザミウマ被害の軽減

※注釈

●発病度 12.5 を目安とした斑点病の防除開始時期決定

斑点病の薬剤散布開始期の目安は、発病度で 12.5（主茎に病斑が散見）の時である。グリーンアスパラガスの収穫ほ場ではおおよそ8月中旬頃に相当する。

●斑点病対策として、品種間差を考慮した斑点病抵抗性品種の選定

	A群	B群	C群	D群	E群
品種・系統	ガインリム ヴェンリム バックリム テイリム	カーリム ホーリム フルート KJ1610 エリート フランクリム	ウエルカム パイトル グリーンタワー シャワー ホールランド キャントール ナイヤガラコールド	雄次郎 北大 65×19 月交 2号 ズイユ 北海 100 KJ1611	メリーワシントン 500W UC157 UC800 ホールトム
収量 (kg/10a)	480~640	420~540	400~500	320~450	300~430
Lサイズ以上 (%)	60	34	40	25	30
生育指数 (GI)	10,000	10,000	8,000	7,600	8,200
欠株率 (%)	1	5	10	10	10
耐病性	斑点病強	斑点病やや強		斑点病強	
頭部のしまり	中程度	やや不良	良	中程度	良
アントシアニン着色	基部着色	強	弱	やや強	弱
内部品質	Brix 値高	ビタミンC 含量中		ビタミンC 含量多	

(平成14年度指導参考事項 花・野菜技術センター)

- 倒伏防止措置は必ず行うこと
 - ・過繁茂防止のための刈り込み（トップング）
 - ・フラワーネット、ポリエチレンテープ2段式もしくは市販倒伏防止具を利用する。
- 近紫外線カットフィルムの利用による斑点病及びネギアザミウマ対策
 - ・ハウス栽培及び雨よけ栽培においては、近紫外線カットフィルムの利用により斑点病とネギアザミウマの被害を抑制できる。ただし、斑点病に対する抑制効果は使用2年目までしか期待できないので注意する。
- 光反射資材の利用によるネギアザミウマ対策
 - ・ハウス栽培において、光反射資材（タイベックなどの光の反射率が高いもの）をハウス側面の地面に敷設すると、ハウス内へのネギアザミウマの侵入を抑制できる。ただし、表面が汚れて光反射率が低下すると効果も低下するので注意する。